

より安全で明るく元気なまちづくり 大好きな“菅”を心のふる里に

桜の花が咲き、若葉が色鮮やかに芽生える季節になりました。ひと昔前には学校の入学式を迎える頃に桜が開花し、記念写真に写り込まれた思い出が蘇りますが、最近3月の卒業式の頃に桜が咲いて門出を祝ってくれるように、心を温かくしてくれています。菅に住宅が増え暖かくなったこともあるかも知れませんが、やはり気候の温暖化によるものが大きいと思います。

世界のいたるところで発生している大洪水、乾燥による山火事、超大型の台風や竜巻などの災害は温暖化に起因していると考えられます。昨年英国のグラスゴーで開催された気候変動会議で、地球環境を維持するために、世界の平均気温を産業革命前より1.5℃以内に抑えることが必須で、少なくとも2050年までに世界中の国がカーボンニュートラル達成に務めることになりました。めでたく、ノーベル物理学賞を受賞された真鍋淑郎先生も、気候変動への業績が認められての受賞になりました。

石炭や天然ガスを使った火力発電を減らすことによる新たな電力の確保、電気や燃料電池などを使った自動車の普及



菅町会 会長 濃沼 健夫



川崎市多摩区菅 2-2-25
発行所 菅町会
発行人 濃沼 健夫
編集 広 報 部
電話 044-944-0445



菅町会 公式アカウント
http://sugechoukai.com
Facebook @sugechoukai
Twitter @sugechoukai

及加速など、脱炭素社会に向けて、先進諸国の技術力が大いに期待されています。カーボンニュートラルも、人類が将来和やかに暮らして行くための持続可能な開発目標(SDGs)の大切な要素と考えられます。技術立国と言われる大きな日本が、その力を発揮する大きなチャンスを迎えていると、言っても過言ではありません。

さて、今年度も昨年度に続き、新型コロナウイルスに悩まされた一年でした。この二年の間に感染を防ぐ対策も明らかになり、ワクチンの接種に加えて医療体制も整って来たように感じます。さらに経口治療薬も開発され、商品化されました。まだまだ、自分や家族が感染したらどうしようという不安はぬぐい切れませんが、コロナ発生時の恐怖や怯えは薄らいできたように思います。早くインフルエンザ並みの感染症に落ちついて、社会のつながりの回復、経済活動の活性化が図れるようになることを願っています。

令和3年度の菅町会の事業を振り返ると、前年度に続いてやはり新型コロナウイルスに悩まされた一年で、総会は前年度と同様に書面での決議による意思決定で議案表決をさせて頂きました。役員は改選期に当たり昨年7月の「菅町会だより」に掲載しましたように3人の役員が交代し、新しいメンバーでスタートしました。約90名が集まる理事会は、コロナ対策を施した上で三密を



朝のラッシュ時は乗降・乗り換えが大混雑 駅舎のJR稲田駅付近

避けるために二班に分けて、時間を限定して開催するなど工夫しました。献血活動、募金活動、土土説明会、各部の事業、防災会議、年末パトロールなどは、通常通り行いましたが、多くの方が集まる魚のつかみ大会、町会大運動会、敬老会、菅ふるさと祭りの開催は見送ることになりました。日帰り理事研修会も幸いにもコロナ感染者数が全国で百人規模に減った時期になり、大河ドラマ「晴天を衝け」で話題の渋沢栄一 大河ドラマ館などを見学し、見聞を広めました。

今年度は新たに、令和元年に発生した稲田堤地区の浸水に対するその後の改修状況説明会、体験型交通安全キャンペーン、などを実施しました。また、西山副会長が主査になり、IT技術に長けたメンバーの力を借りて町会の事務処理デジタル化の会議を推進しました。内容は、「前第137号の「菅町会だより」に記載しました。町会の各種様式をオンラインでダウンロードし、必要事項を入力した後、オンラインで転送する

仕組みで、昨年11月1日より運用を開始しました。これにより町会理事、地区委員、役員の方々が館事務所に足を運ぶ手間をわずかに減らせばと考えています。いずれは、事務的な会議をリモートで行うことも検討したいと考えています。

また、長年の課題であった「菅ガイドブック」冊子を作成し、全戸に配布しました。菅に住居された方も、新たに菅に転居された方も、何か困ったときを通して頂ければ、菅の街にこんなところがあつたのか、こうすればよかつたのかときと役立つこととしたいと思います。

菅の皆さまの御覧の南武線稲田駅駅舎改修の工事は、昨年6月より駅舎の運用が始まりました。電車到着時、人通りが多くなった返さぬように道幅の拡幅や交通整理員を置いて改善して頂くようお願いしましたが、それでも混み合っていました。更に、更なる工夫を要望して参ります。

会員の皆様には、この一年町の各種事業・活動にご支援ご協力を賜り、役員、理事とともに深く感謝申し上げます。

つたのかときと役立つこととしたいと思います。

菅の皆さまの御覧の南武線稲田駅駅舎改修の工事は、昨年6月より駅舎の運用が始まりました。電車到着時、人通りが多くなった返さぬように道幅の拡幅や交通整理員を置いて改善して頂くようお願いしましたが、それでも混み合っていました。更に、更なる工夫を要望して参ります。

会員の皆様には、この一年町の各種事業・活動にご支援ご協力を賜り、役員、理事とともに深く感謝申し上げます。

手造り豆腐・食品
廣田豆腐店
老舗の味をご賞味ください。
多摩区菅北浦2丁目1番3号
TEL.944-2258 定休日 土曜日
FAX.944-2398

東大生講師が受験指導
学習塾 STUDIX
グランドピアノで本格指導・発表会充実
うえはら音楽教室
お問い合わせはどちらも
044-577-2750

Afresh あなたに、あたらしく。
Bank of Yokohama
横浜銀行
稲田堤支店
TEL:044-944-4111
http://www.boj.co.jp/

SUBARU
販売・車検・点検・修理
板金・塗装・保険代理
グッズ・パーツ取扱店
スバルショップ多摩
土・日も営業中!お気軽にご相談ください
TEL.044-944-4543(代)
FAX.044-944-4569



神主の射った矢が見事、的に命中

菅町会主催の新年行事、北浦・子之神社の「お祭」が1月9日(日)に役員のみで規模を縮小して開催されました。社殿で祝詞をあげたのち、二人の神主が「お日待ち」の字を矢で、一年間の町内の安全や五穀豊穡などを祈願しました。また、15日(土)には菅・八雲神社で「お日待ち」が開催されました。かつては近隣の人々が夜を徹して日の出を拝む行事で、菅の各地区でも行われていたが、今日では無病息災などを祈念する行事として社殿で執り行われます。今年の神事は少人数で縮小して行われました。どちらの神社でも正月飾りなどのお焚き上げは、従来通り行われました。



町内のパトロールに向かう青色パト

菅の町で45年間続いている年の瀬の風物詩、昭和50年から45年間続いている菅町会の年末パトロール今年度も実施いたしました。年の暮れに、拍子木の音で始まる防犯や防犯へのメッセージが、菅の町を巡ります。12月20日、開始に先立ち、30日まで11日間の活動への安全を祈願し、激励する出発式を行いました。

「菅ガイドブック」冊子を作成し、全戸に配布しました。菅に住居された方も、新たに菅に転居された方も、何か困ったときを通して頂ければ、菅の街にこんなところがあつたのか、こうすればよかつたのかときと役立つこととしたいと思います。



東菅小PTA大会会長と藤中校長 (写真はタウンニュース社提供)



制服を着て白バイに乗車体験



交通安全教育車「ゆとり号」のお目見え

東菅小のPTA活動が、文部科学省では毎年度、優秀な実績を上げているPTAの表彰を行っています。11月19日のPTA全国大会で受賞したのは川崎市市の「久木小父母と先生の会」と、東菅小PTAの2校の2団体でした。

東菅小PTAは農機具や民具、展示資料が並ぶ郷土資料館を校内で運営。運営するとして、児童が郷土に愛着を持てるよう工夫を重ねているなどのPTA活動が、文部科学省では毎年度、優秀な実績を上げているPTAの表彰を行っています。11月19日のPTA全国大会で受賞したのは川崎市市の「久木小父母と先生の会」と、東菅小PTAの2校の2団体でした。

立川間の全線が開通し、菅に稲田堤駅ができました。南武線の稲田堤の堤に251本を植えたのが始まりです。当時の菅村有志が多摩川の堤防を強くするために桜の植樹を依頼し、神奈川県より水防用の樹木として許可されました。桜を植えて10年を過ぎると、都会から花見客が次第に来るようになり、稲田堤の桜が名所として稲田堤の桜が宣伝されるようになり、東京からの多数の花見客で賑わいました。当時、東京下町の花見は向島、上野、飛鳥山、山の手の人たちは京王電車に乗って多摩川べりの稲田堤にきたものでした。その頃、関東の桜の三大名所と言われると、東京王子の飛鳥山、千葉成田の三里塚、それに稲田堤の桜が数えられていました。京王電車の「桜の名所・稲田堤」への乗客の誘致は大成功を挙げました。

昭和16年には、府中県道から南武線の稲田堤駅の横を通り多摩川の土手に至る観光道路がつけられました。当時としては極めて新しい木を植えることも自動車の排気ガスと沿線道路の開発で、ますます道路の木も減少しました。観光道路の桜も見事な花を見ることができ、その後の、堤防工事のため昭和11年に現在のところに移されました。※記念碑周辺の桜は、昭和50年に建設省(直轄事業)百年記念植樹として植えたものです。

昭和4年に南武線が川崎と

稲田堤の桜・古写真(生田誠氏)より(部分着色)

稲田堤の桜の碑(スケッチ望月雪枝)

昭和16年には、府中県道から南武線の稲田堤駅の横を通り多摩川の土手に至る観光道路がつけられました。当時としては極めて新しい木を植えることも自動車の排気ガスと沿線道路の開発で、ますます道路の木も減少しました。観光道路の桜も見事な花を見ることができ、その後の、堤防工事のため昭和11年に現在のところに移されました。※記念碑周辺の桜は、昭和50年に建設省(直轄事業)百年記念植樹として植えたものです。

立川間の全線が開通し、菅に稲田堤駅ができました。南武線の稲田堤の堤に251本を植えたのが始まりです。当時の菅村有志が多摩川の堤防を強くするために桜の植樹を依頼し、神奈川県より水防用の樹木として許可されました。桜を植えて10年を過ぎると、都会から花見客が次第に来るようになり、稲田堤の桜が名所として稲田堤の桜が宣伝されるようになり、東京からの多数の花見客で賑わいました。当時、東京下町の花見は向島、上野、飛鳥山、山の手の人たちは京王電車に乗って多摩川べりの稲田堤に